

## 広島支部結成大会あいさつ

本日、支部結成大会に結集されました組合員のみなさまご苦労様です。また大変お忙しいなか駆けつけてくださいました本部の家門副委員長、地本の石野副委員長ありがとうございます。新支部結成準備会を代表して、元広島中央支部副支部長の増田がごあいさつを申し上げます。

議案の経過報告と重複しますが、12月5日に広島新局の要員計画書が地本に提示され、その後すぐに関係社員対象に12月26日が提出期限の意向確認書が配布されてきました。新局、現局での業務内容・勤務時間・通勤手段などこの時点で全く明らかになっていない中での意向確認であり、この会社の姿勢にみなさんは強い怒りを感じたと思います。

地本提示の要員計画では、広島新局88名、広島中央局145名との計画で新局への組合員の異動は少人数になるのではとの予想されました。年明けから新支部結成準備会を立ち上げ「新局開局と同時に少人数でも必ず新支部をつくる」ことを決定し準備をしてきました。議案でも触れていますが「開局と同時に郵政ユニオンの旗が立つ」ということは非常に大きな意味があります。

個人的な見解になるかもしれませんが、広島中央郵便局の職場は他のどこよりも一番働きやすい職場だと私は思っています。深夜勤はあるし、人は減ったし、夜中の労働密度は濃くなるし、体力的にもしんどくなっていますが、しかし、精神的に、気分的に、気持ち的に一番働きやすい職場だと思っています。

このことは先輩方が長年築いてきた職場風土があるからです。何度も聞いた言葉があります。『あたりまえの労働組合』、『安心して働ける職場』、『一番弱い人に目を向ける労働組合』、『問題ある施策はすんなり通せない』、これらを意識している、染み付いている『職場風土』があるからです。それは郵政ユニオンの存在があるからだだと自負しています。

全く新しい職場で、周辺局からも社員が来られます。新しい期間雇用社員の方も入ってきます。新しい仕事の流れで日々問題が山ほど出てくるでしょう。その時に組合員一人一人がどう行動していくのか？ 周りの人たちにどう接していくのか？ どう信頼関係を築いていくのか？ 新しい支部運動をどう創っていくのか？ 本日の結成大会が、新たな気持ちでそれらを考えてみる一日になればと思っています。

意義ある結成大会となるよう祈念して私のあいさつとします。よろしく願います。

2017年4月2日  
広島支部結成準備会  
代表 増田正文